

実行委員会メンバー

- 長尾 和宏 医療法人社団裕和会 長尾クリニック院長
- 岡村 ヒロ子 つどい場「私空間」代表
- 中島 淳美 医療法人明和病院 訪問看護センター明和 看護師主任
- 港谷 泰之 医療法人社団裕和会 長尾クリニック広報
- 中島 康江 地域活動者
- 栗野 真造 西長洲荘主任介護支援専門員
- 正原 匡明 西宮市社会福祉事業団 すこやかケア西宮通所リハビリテーション科長
- 辻野 朋子 西宮市社会福祉協議会 地域福祉課 地域福祉係
- 植村 弘巳 つどい場さくらちゃん 監事
- 丸尾 多重子 つどい場さくらちゃん 理事長
- つどい場さくらちゃん事務局



開催日：2016年1月10日（日）

10:00～16:30

会場：西宮市民会館アミティホール

介護と医療とご近所（地域）が、楽しく・愉快地にまじくります。
 介護・医療現場の最前線にいる講師陣や元気介護家族が現在の介護・医療
 について語りあいます。

特定非営利活動法人 つどい場さくらちゃん

～ご支援宜しくお願いします～

つどい場さくらちゃんは皆様の会費で運営されています

正会員 一個人：1口 3,000円 団体：1口 10,000円

賛助会員 一個人：1口 1,000円 団体：1口 3,000円

《郵便振替》

口座番号：00900-3-166692

口座名称：特定非営利活動法人つどい場さくらちゃん



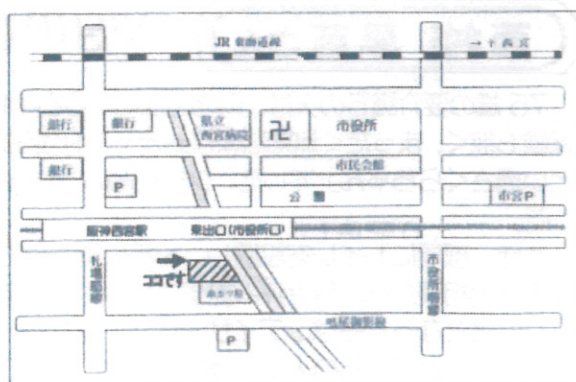
〒662-0972 西宮市今在家町1-3

TEL・FAX:0798-35-0251

Email: sakurachanmaru@bca.bai.ne.jp

HP: http://www.geocities.jp/tsudoiba_sakurachan/

阪神電車西宮駅
東出口(市役所口)南西すぐ



主催：NPO法人つどい場さくらちゃん
 医療法人社団裕和会 長尾クリニック

共催：社会福祉法人西宮市社会福祉協議会

後援：社会福祉法人兵庫県社会福祉協議会
 兵庫県宅老所 グループホーム・グループハウス連絡会

ご挨拶

今年も全国からこの「か（介護）い（医療）ご（ご近所）楽快」にお集まりいただき本当にありがとうございます。

受けたくない「介護」を受けている本人の代弁者である「家族」の想いを伝えたくて始めた「か・い・ご学会」も今年で10回目になりました。今年、「介護」「医療」「ご近所」が「暗くて」「しんどくて」「認知症になったらおしまい」が世の中に蔓延している空気を払しょくしたくて、「か・い・ご楽快」と名付けて開催の運びになりました。

登壇して下さるメンバー・・・凄いですよね。お一人お一人に感謝です。

「実行委員会」のみなさんにも感謝です。

「介護保険」がスタートしてまもなく16年目になります。

この“日本”で長生きして良かったですか？

「介護」と「医療」と「ご近所」が“まじくって”他人事でなく自分事として、「老いること」「死ぬこと」を共に考えませんか？

「つどい場さくらちゃん」も13年目になりました。支えて下さったみなさんのお陰です。ありがとうございます。

全国に「つどい場」がどんどん誕生しています。

さあ～あなたは“なに”を伝えますか？“どんな”行動をしますか？

今日1日、「楽しく」「愉快」にお過ごしてください！！

つどい場さくらちゃん まるちゃん
(丸尾 多重子)



プログラム

開会挨拶 つどい場さくらちゃん 理事長 丸尾 多重子
＜司会＞岡村 ヒロ子（つどい場「私空間」）代表

まじめに 講演タイム

(10:10～12:20)

①「制度は幸せを保証するものではない」
大坂 純さん(仙台白百合女子大学人間学部教授)

②「死はみな孤独死」
鳥海 房枝さん(特養「あじさい荘」総合ケアアドバイザー
「NPO法人メイアイヘルプユー」事務局長)

③「理想の施設は出来るの？」
中矢 暁美さん(託老所あんき代表)

昼食を
お忘れなく！

ワンマンショー

昼休憩：12:20～13:20

ランチョンセミナー～お弁当を食べながら～
長尾和宏ワンマンショー！
(医療法人社団裕和会理事長・長尾クリニック院長)

平穩死

ガン

認知症

くすり

映画！ そして語り

(13:20～14:20)

映画をちょこつと見ながら講演
「毎日ガアルツハイマー FINAL」に込めた思い！

関口 祐加さん(映画監督)

休憩：14:20～14:35

全員そろって ぶっちゃけトーク

(14:35～16:30)

「今の介護現場の実態は…?!」

登壇者：大坂 純さん・鳥海 房枝さん・中矢 暁美さん・長尾 和宏さん
中島 淳美さん(訪問看護師)・北川 幸代さん(介護家族)
西村 早苗さん(介護者家族)・丸尾 多重子さん
コーディネーター：岡村 ヒロ子さん



★懇親会：17:30～19:30★ 先着100名まで(会費5,000円)

[会場 木曽路西宮店 TEL0798-33-0050]

登壇者からのメッセージ

関口 祐加さん

SEKIGUCHI YUKA

「里帰り」

11月2日から5日まで、シドニーに里帰りをしてきました。私にとっては日本は両親の縁で生まれてきた国ですが、オーストラリアは、自ら選んだ国という表現がピッタリ。なので、自然と「帰る」という表現となります。29年間という長い年月を過ごしたのでなおさらですね。

今回は、シドニーにある国立映画学校の招聘を受け「毎日がアルツハイマー2」の英語版を見せ、授業をしてきました。母国語以外に話せる言語を持つことはとても大切です。なぜか？自分が一つの言語や思想に閉ざされていることを理解することができるためです。

私にとっての英語は、自分の立ち位置を第三者の眼でみるツールとも言えます。

お陰様でシドニーにいる映画の仲間達に助けられ、里帰りは大成功でした。肝心の母も自分が安心して泊まれるお泊りデイサービスに宿泊し、私が横浜に戻った翌日、元気に帰宅しました。母は、認知症初期よりも進行した今の方がずっと幸せそうです。既成概念にとらわれず、本末転倒な事はせず、世界市民として生きる。これは、これからも私の揺るぎない信条です。



<プロフィール>

大学卒業後、オーストラリアに渡る。2010年1月、母の介護を決意し帰国。2009年より、母との日々の様子をYouTubeへ投稿。それらをまとめた長編動画「毎日がアルツハイマー」として、発表。大きな反響を呼び続編など日本全国で上映。

大坂 純さん

OSAKA JUN

「一日でも長く自分らしく幸せに暮らしたい」多くの人があたりまえに望んでいることです。私は、必要なときに福祉や医療の制度を使うことで、どんな時でもその人らしく暮らせると考え、約20年間、医療機関でソーシャルワーカーとして働いてきました。沢山の人を病院や施設とつなげて、その人らしく暮らし続けるお手伝いをしているつもりでした。しかし、病院や施設でその人らしく暮らすことが困難であることを多くの人から教わりました。

東日本大震災を経験し、日々の暮らしの大切さを再認識しました。またどんな時でもその人らしく暮らすことを支える仕組みは、福祉や医療の制度だけでは無いことも大震災以降強く思っています。

今回は、「制度だけを頼っては、人は幸せにならない」こと、そして幸せに暮らすための方法等を本音で話す貴重な機会です。制度だけに頼らず、どんな時でもその人らしく暮らすことを既にあたりまえに実践している、登壇者の皆さんとワクワクしながら幸せな暮らしへ進むいろいろな道筋を探したいと思います。



<プロフィール>

日本社会事業学校研究科を卒業後、約20年間こわたり病院に勤務。現在は、仙台白百合女子大学人間学部心理福祉学科の専任教授として勤務。ソーシャルワーカー養成にあたりながら、誰もが地域で自分らしく暮らすことをテーマに著書多数。

鳥海 房枝さん

CHOKAI FUSAE

「制度と事業者に餌食にされている高齢者？」

人口減少が取りざたされているなかで、どここの地方に行っても必ず出会うのは通所介護の送迎車です。さらに、入所希望者がどれだけいるのかを疑うほど、立派な入所施設をたくさん目にします。その一方で、道端を歩く高齢者の姿を目にすることが少なくなっています。年齢相応に足腰が弱り、それでも本人なりのやり方で身辺処理をしていた高齢者は、「底引き網」で集められるようにして、通所介護等に通わされているのではないのでしょうか？

介護保険は介護の社会化を目指し、在宅で女性が介護を担う状態を解消するとしてきました。介護保険の導入で隣近所のおせっかいは、姿を消し、それに代わって専門家(?)による「援助」が登場したのです。ところが団塊の世代が要介護状態になる時期を目前にして、コミュニティの再生(おせっかい社会)や、元気高齢者の地方移住が言われるようになりました。

団塊の世代と言われる当事者として、自分はどうか生きて終わっていくか考えるようになりました。少なくとも制度と事業者の餌食にだけはならないつもりです。



<プロフィール>

東京保健所で15年間地域ケアに従事。1998年特別養護老人ホーム副施設長として身体拘束に頼らない介護に取り組む。現在、特定非営利活動法人メイアイヘルプユエの事務局長を務めながら全国各地で良いケアのあり方等について講演。

中矢 暁美さん

NAKAYA AKEMI

私は、昭和57年から家庭奉仕員という仕事に就きました。託老所あんきを開設しようと思ったきっかけは、ホームヘルパーの資格を取るために実習で見た光景に唖然としたことです。ひとつは入浴、二つ目は認知症の方が徘徊や周回をしている光景です。認知症の方の行動は、なぜ起るのか、なぜ行動をするのか、その原因が必ずあると思い特養に就職し、勤務中ずっと徘徊をするお年寄りや行動をともし、なぜ徘徊するかということを感じ、探り、その人からの答えが約半年ほどで少しずつ私に与えてくれるものがありました。そこで気づいたことは、その人の出来ること、その人の排泄パターンを知る、生活歴を知る、性格を知る、いつも声かけをする、こんなことをしていると自然に徘徊がなくなり、普通のばあちゃんになりました。

平成9年に託老所あんきを開設するときに心に誓った

1. 自分が暮らす地域
 2. 誰でも出入りができる雲田気空間づくり
 3. 環境を変えないということ
- を考えると、普通の家、暮らしの継続が基本になると現在に至っています。介護保険制度が導入され制度改正のたびに、お年寄りが遠くに離れ、家族や事業所が一番近い所にいるようで、制度に振り回されない自分を保とうと葛藤の日々です。



<プロフィール>

小児科病院の看護師をかわきりに、松山市社協ヘルパー、障害者・高齢者施設を経て、1997年愛媛で最初の託老所「あんき」を開設。2003年から、認知症があっても何があっても最期まで暮らせるグループホーム「こんまいあんき」を開設。

長尾 和宏さん

NAGAO KAZUHIRO

みなさま、こんにちは。私は、57歳の尼崎の町医者の長尾和宏です。“つどい場さくらちゃん”と出会った10年前は認知症の「に」の字も全く知りませんでした。しかし、つどい場の仲間と“まじくる”うちに認知症とはなにかを自然に学び、今日までできました。当事者と介護者が私の素晴らしい先生でした。おかげで認知症があまり怖くなくなりました。みなさんは認知症が怖いですか？もし怖くてもなる時はなるのが認知症です。でも毎日歩くことでかなり予防できることは知っておいてください。もし、認知症になっても自由に徘徊できる街をみなさんと一緒に作りましょうね。たとえ要介護5になっても外国に旅行できる仲間を大切にしておきましょうね。もしよければ、まるちゃんとの2つの共著「ばあちゃん、介護施設を間違えたらもっとボケるで！」と「ボケた家族の愛しかた」を読んで是非感想を教えてください。今日は、盛りだくさんの内容ですが最後までよろしくお祈りします。



<プロフィール>

医療法人社団裕和会理事長、長尾クリニック院長、医師。尼崎市で、複数の医師とともに年中無休の外来診療と在宅医療を営む。『平穏死 10 の条件』『抗がん剤 10 の「やめどき」』（ブックマン社）など多数の著書が全国的に大反響を巻き起こしている。

岡村 ヒロ子さん

OKAMURA HIROKO

「か・い・ご楽快に期待！

今日は、介護のイメージを変える日」

“か・い・ご楽快”ですと！「学会」ではなく「楽快」？今年も、まるちゃん旋風は吹き荒れる。介護は本来、楽しく、お互い快くなるものだ。しかし、ちまたでは介護を目的にしている。きつい、汚い、給料が安い等々、どれだけあげれば気が済むのか。いいことなんて一つもない。世の人々は「介護の仕事なんかするものか」そう思い込む。介護職の方々・養成校の先生方は、後進に介護の何を伝えてきたのだろうか？介護の奥深さとか、人と人の関わりの中で変わっていく喜び、そんな「介護の素晴らしさ」を置き忘れてきたのではないか？介護福祉士養成校への入学にしのぎを削ったのは遠い昔のこと。国は、2025年に38万人の介護人材不足になるとはじき出した。数のトリックに騙されてはいけない。皆が「介護なんか受けない」そう腹をくぐれば問題はすぐに解決する。今日は、会場の皆が“変わる日”だ。まるちゃんは旗を振っている、「自分の人生は人任せにはしない」と。



<プロフィール>

つどい場「私空間」(茨木市)代表。佛教大学社会学部社会福祉学科卒業。特養・老健勤務後、京都福祉専門学校、大阪薫英女子短期大学、大阪人間科学大学にて教鞭をとられる。避難行動要支援者支援をテーマに研究されている。著書多数執筆。

中島 淳美さん

NAKAJIMA ATSUMI

施設に入所が決まったお一人暮らしの男性、大切な家族は犬1匹。何年も散歩にも行けておらず肉球はとてもやわらかい。人懐っこく、訪問に行くとしっぽを大きく揺らして喜んでくれる。今月中に、新しい飼い主が決まらなると殺処分となる現実。中型犬で若くない犬の引き取り先はなかなか難しい。そんな中、ネットの力に助けられ、素敵な飼い主と出会うことができた。キレイに洗いご対面。ワンコと新しい飼い主さんの笑顔。世の中捨てたものでもない。ところが**ほっこり**。明日からも頑張ろうと、夕焼けが特別素敵に見えました。超高齢化社会、認知症になっても安心して暮らしていくには、どうしたらいいと思いますか？700名にアンケートを取らせていただいたことがある。結果は、行政、医療、家族でもなく本当に必要なのは、「知り合い、ご近所」身近な周りのサポートが必要と多くの方が答えられました。この講演できっと「かいご」の**ほっこり**が見つかることができると思います。



<プロフィール>

国立療養所中部病院附属看護学校卒業。夫の転勤に伴い日本各地にて経験を積み、現在、訪問看護センター明和にて訪問看護師主任。認知症ケア上級専門士、在宅褥瘡予防管理師、糖尿病療養指導士。公民館等においてケアについて多数講演。

介護家族の紹介

北川 幸代さん

KITAGAWA YUKIYO

月に1度、片道7時間かけて、両親の住む高知に車を走らせます。母は、今年の夏から故郷の特養にてお世話になっています。それまでは、父による在宅の老々介護と、私が綱渡りのような遠距離介護帰省を繰り返して乗り切っていました。毎日の電話による父の介護不安をどうすることも出来ず、自分自身が鬱状態にもなったこともありました。仕事との両立にも悩みましたが、社会に繋がり、経済的に自立し、いざというときの介護の資金援助のためにも仕事は続けようと思っています。現在、父は、親戚や友人に支えられ、自身も地域の為に活躍して一人暮らしを頑張っています。母は、毎日の父の訪問と地元の介護スタッフの温かな支援で穏やかに過ごしています。私は、悩みは消えませんが、相談出来るつどい場に出会い、遅くなって、遠距離介護継続中です。

西村 早苗さん

NISHIMURA SANAE

75歳の要介護5の夫は、脳内出血になり右半身マヒとなって25年目を迎えようとしています。介護保険も無く、まったく無知なまま始まった介護生活でしたが、支えて下さったのは、介護仲間であり、「つどい場さくらちゃん」でした。グチを聞いてもらい、知識や情報を得ることで、気持ちが前向きになりました。昨年、部屋にトイレを設置し、一番の重労働であったトイレ介助が、グンと楽になりました。住宅改修業者への相談から、想定外の提案があり実現しました。一人で悩まず、声を出すことで道は拓けます。老々介護となった今は、デイサービス、ショートステイ、訪問診療、訪問看護、友人等沢山の方々の助けを借りることで、私の人生も豊かになり、二人の生活も幸せになると信じて、在宅介護を続けています。